



国際的に活躍できる看護師を目指して東京医科歯科大学に入学した前川さん。高校時代には青少年赤十字(ジュニアレッドクロス)の活動にも参加した。「国内トップレベルの看護学教育が受けられるだけでなく、グローバルな活動ができる大学ということで東京医科歯科大学を志望しました。大学では授業以外の活動を通して学ぶこともたくさんあります」。

Sari Maekawa

前川紗莉さん

医学部保健衛生学科看護学専攻4年

いつかは国際的に活動できるように
どんなことにもチャレンジ！

保健衛生学科看護学専攻4年の前川紗莉さんは、「国際的に活躍する看護師になりたい」という夢に向かって、アクティブな学生生活を送る。勉強、実習、海外研修、サークル活動と、様々な活動にチャレンジしてきた。

「中学2年のときに参加したボランティア研修でベトナムに行き、ベトナム戦争の影響で治療を受ける子どもたちが生活する施設を訪れたことがきっかけです。しかし、大学に入学して、自分が思っていたよりも看護の世界は奥深いのだと気づきました。以前は患者さんの立場で寄り添う仕事だと思っていましたが、ときには客観的な視点を持つことが重要です」

3年生のときに受けた成人看護学実習では、実際の患者さんと関わる中で、個別性に配慮することを学んだ。

「顔に欠損部のある患者さんを担当させてもらい、失った機能に対するケアの難しさを感じていました。しかし、患者さんのバックグラウンドを知って個人に丁寧に向き合い、できることに焦点を当てられるよう支援していくことが大切だと知りました」

国際的な活動にも積極的で、ネパール、ラオス、フィンランドの短期研修に参加した。3年生の夏に参加したラオスでは、呪術的な伝統療法を見て衝撃を受けたという。

「各国には伝統的な生活の中で根付いてきた文化があり、人々が独自のスタイルで生活している場面をたくさん目にしました。本当に私たちの支援は必要なのかと考えさせられ、国際支援の難しさを感じました」

HSLP(ヘルス・サイエンス・リーダーシップ・プログラム)にも選ばれ、グローバル教育を受ける機会にも恵まれた。

「HSLPには語学の堪能な学生がたくさんいて、劣等感を感じることもありました。それでも、グループワークでは医学科や歯学科の学生たちに対してリーダーシップを発揮しなければいけないなど、チームでの関わり、伝え方など多くの学びや気づきがありました」

さらに、ダンスサークルで思いきり体を動かすなど、充実した学生生活を送る前川さん。卒業後は臨床現場で看護師として働く。

「将来海外で働くにしても、まずは日本で知識と技術を身につけて、一人前の看護師になることから。そして、患者さんやその家族一人ひとりに合った看護を提供できるように看護師になりたいと思います」

B

短期留学したラオスで。病院やJICAオフィスを見学させてもらった。

